

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	新規開発電子的デバイスによる服薬アドヒアランス測定並びに服薬指導への応用の検討				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・特任教授	氏名	山田 浩
	研究分担者	所属・職名	薬学部・客員共同研究員	氏名	古島 大資
		所属・職名	みどりや薬局・薬剤師	氏名	清水 雅之
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	薬学部・特任教授	氏名	山田 浩

講演題目	新規開発電子的デバイスによる服薬アドヒアランス測定並びに服薬指導への応用の検討
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>医薬品の適正使用において有効性や安全性を正しく評価するためには、患者が処方指示通り服薬すること（服薬アドヒアランス）が評価の大前提となる。服薬アドヒアランスの確認には従来より残薬チェックや薬物濃度の測定など様々な方法が採られているが、正確性や操作性、リアルタイムな情報入手といった点において、臨床的に十分に信頼して使用できるものは少ない。本研究では、最近、開発した通信機能を有しリアルタイムに服薬状況を把握できる電子的デバイス（服薬記録器）を用い、服薬アドヒアランス測定における信頼性の評価と服薬指導における実用性を、地域の保険薬局と協働し検討した。</p> <p>保険薬局に定期的に来局し且つ排便コントロールが困難で酸化マグネシウム錠を服薬している患者5名（年齢61～86歳、男3名/女2名）を対象に、服薬記録器を用いた服薬アドヒアランス測定と薬局薬剤師による服薬指導を行った。服薬記録器から外部サーバーへの通信の成功率は、全症例100%であった。一方、服薬記録器により記録されたPTPシートから取り出した日毎の錠数記録と、排便日誌に記録された日毎の服薬錠数の一致率は、平均74.5%であった。臨床症状では、服薬指導前後での全排便に対する正常便の割合の変化は、改善1例、不変3例、悪化0例であった。</p> <p>本研究は小規模ではあるが、新規開発服薬記録器が薬局における実臨床の場で活用できる可能性を示した。薬局薬剤師による服薬指導への応用については症例を蓄積することで、服薬記録器の実用性の確認と共に、臨床症状に対する効果について更に検討する必要があると考える。</p>